

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2013 優秀作品

「世界に笑顔届けたい」

私はこの夏、あるボランティアをした。そのボランティアは、日本で出版され、国や文化、時代を超えて親しまれている絵本に、ミャンマーやカンボジアなどの言語の翻訳シールをはって、海外の子供たちが母語で読める絵本となったものを対象の地域に届けるというものだった。

このボランティアを通じて、私は二つのことを考えた。一つは、識字能力について。みなさんは、学校に行けない子供や、読み書きができない人が世界にどの位いるのかわっているだろうか。また、読み書きができないことによって、亡くなる人がいることを知っているだろうか。

世界には、貧困や紛争により、安心して学校に行けない子供たちが、七千五百万人、読み書きができない人が七億七千六百万人もいる。そして、最悪なことに、読み書きができないために、薬の処方箋が読めず、誤用したり、地雷があることを示す看板が読めず、地雷をふんでしまって命をおとす人がいる。

私は、今まで、読み書きができない人は百万人程度だろうと思っていた。また、読み書きができないことによって命を落とす人がいることも知らなかった。戦争、紛争のない国で、安心して生活を営むことができる上に、自由に学べる環境に生きているから、世界でそのような事が起こっているとは考えられなかったのだと思う。

そして、もう一つは絵本の力について。

私が通っていた小学校では、月に一度、保護者の方が絵本の読み聞かせをしてくださる時間があった。私は毎月、その時間が楽しみだった。なぜなら、絵本を読んでいると、自然に心が温かくなって、笑顔になれるからだ。絵本には、そういった力がある。だから私は、紛争をしている国の子供たちの心が自然と温かくなるように、絵本のない地域の子供たちが、自然と笑顔になるように、という思いから絵本のボランティアに参加したのだ。

私は、安心して学んだり、絵本を読むことができる私たちが働きかけることが必要だと思う。日本には、私が行った絵本のボランティアの他に、書き損じはがきや、未使用切手を寄付したり、募金をして、海外の学校を支援するボランティアや、実際に海外に向いて学校をつくったり、勉強を教えるボランティアなど、たくさんのボランティア活動がある。私はまだ、海外へ行って、ボランティアをすることはできない。でも、今回行った絵本のボランティアのように、自分ができる最大限のボランティアを精一杯やっていくつもりだ。

私には、夢がある。それは、世界中に笑顔届けられる人になること。その夢に向かって、これからも、いろいろなボランティアに参加していきたい。

中学3年 S. Sさん (当時 中学2年)

ベトナム研修に参加して

私はこの夏、JICA主催の海外研修に参加し、5泊6日でベトナムに行ってきました。

この研修の目的は、自分の目で見てベトナムの現状を知ること。言葉の通じない相手とでも、積極的にコミュニケーションをとること。そして、自分の目で見てきたことや体験してきたことをたくさんの人に伝えるメッセンジャーとなることでした。

ベトナムでは、日本が支援している場所を訪れたり、ホームステイをしました。訪問先で特に印象的だったのは、医療器具や技術を日本が支援しているバックマイ病院です。この病院で驚いたことは、日本で問題になっている、患者さんのたらい回しがなく、すべての人を受け入れるので、看護師不足やベッド不足という問題があり、1つのベッドを3人で使用するなど衛生的によくはない面がありました。その一方で、いつでも家族が患者さんのそばについていられるので、その安心感からか入院患者の方たちには笑顔があふれていました。この病院で働く日本人の看護師さんは、「日本の病院でも家族がいつでもそばにいられるといいのに」とおっしゃっていました。私はこの病院で家族の存在の大きさを改めて感じました。



研修では、ドンラム村という農村も訪れました。街での暮らしは日本とあまり変わらないのに比べ、村の暮らしは数十年タイムスリップしたようでした。しかし、街と村で変わらないのはベトナムの人の優しさでした。

この研修に参加するまでは、ベトナムは生水が飲めない、スリが多い、デング熱など怖い印象でした。現地に行き、ベトナムの人とコミュニケーションをとることでベトナムはもう一度訪れたい国となりました。

2学期に入り、私の研修での体験を、学年集会で発表しました。友達からは、「おもしろかった」「海外へ行きたくなった」といってもらい、伝えることの大切さも知りました。

今回の海外研修と発表を通じて、初めてのことをたくさん経験することができました。この研修を支えてくれたJICAのみなさん、発表の場所をつくって下さった先生方、そして、発表を熱心に聞いてくれた中学三年生の皆さん、ありがとうございました。

(中学3年 S. Sさん)